

くすりのしおり（案）

内服剤

2025 年 8 月作成

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。そのために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

製品名：ラコサミド錠 50mg「JG」

主成分：ラコサミド (Lacosamide)

剤形：淡赤紫色～淡赤色の錠剤、長径 9.8mm、短径 4.6mm、厚さ 3.1mm

シート記載など：ラコサミド錠 50mg「JG」、ラコサミド 50、50、Lacosamide50、ラコサミド 50mg「JG」



この薬の作用と効果について

脳内の神経の過剰な興奮を抑えて安定化させることによって、てんかんの発作を抑制します。通常、てんかんの部分発作の治療に用いられます。

次のような方は注意が必要な場合があります。必ず担当の医師や薬剤師に伝えてください。

- ・以前に薬や食べ物で、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。肝障害、腎障害がある。
- ・妊娠または授乳中
- ・他に薬などを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・あなたの用法・用量は（：医療担当者記入）
- ・成人：通常、成人は 1 回主成分として 50mg を 1 日 2 回服用より開始し、その後 1 週間以上の間隔をあけて増量され、維持用量は 1 回 100mg を 1 日 2 回服用します。症状により適宜増減されますが、増量は 1 週間以上の間隔をあけて 1 日用量として 100mg 以下ずつ行われます。1 日の最高用量は 400mg までです。
- ・小児：通常、4 歳以上の小児は主成分として 1 日 2mg/kg より開始し、その後 1 週間以上の間隔をあけて 1 日用量として 2mg/kg ずつ増量され、維持用量は体重 30kg 未満の小児は 1 日 6mg/kg、体重 30kg 以上 50kg 未満の小児は 1 日 4mg/kg を、いずれも 1 日 2 回に分けて服用します。なお、症状により体重 30kg 未満の小児は 1 日 12mg/kg、体重 30kg 以上 50kg 未満の小児は 1 日 8mg/kg を超えない範囲で適宜増減されますが、増量は 1 週間以上の間隔をあけて 1 日用量として 2mg/kg 以下ずつ行われます。ただし、体重 50kg 以上の小児では、成人と同じ用法・用量を用います。
- ・本剤は 1 錠中に主成分 50mg を含有します。いずれの場合も、必ず指示された服用方法に従ってください。
- ・飲み忘れた場合は、気がついた時に 1 回分を飲んでください。ただし、次の飲む時間が 6 時間以内の場合は 1 回とばして、次の時間に 1 回分を飲んでください。絶対に 2 回分を一度に飲んではいけません。
- ・誤って多く飲んだ場合は医師または薬剤師に相談してください。
- ・医師の指示なしに、飲むのを止めないでください。

生活上の注意

- ・服用中は、浮動性めまい、霧視、眠気、注意力・集中力・反射運動能力などの低下などがあらわれることがありますので、自動車の運転など、危険を伴う機械の操作はしないでください。
- ・心臓に障害のある患者さん、脈を遅くする作用をもつ薬などを使用している患者さんは、この薬の使用、心電図検査を行うことがあります。その場合には、指定された日時に検査を受けてください。

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、浮動性めまい、頭痛、傾眠、吐き気、嘔吐、疲労、回転性めまい、振戦などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・脈拍の異常、息切れ、気を失う [房室ブロック、徐脈、失神]
- ・発熱、紅斑、水疱・びらん [中毒性表皮壊死融解症、皮膚粘膜眼症候群]
- ・発疹、発熱、リンパ節の膨大 [薬剤性過敏症症候群]
- ・のどの痛み、頭痛、筋肉痛、発熱 [無顆粒球症]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法 その他

- ・乳幼児、小児の手の届かないところで、直射日光、湿気を避けて室温（1～30℃）で保管してください。
- ・薬が残った場合、保管しないで廃棄してください。廃棄方法がわからない場合は受け取った薬局や医療機関に相談してください。他の人に渡さないでください。

医療担当者記入欄

年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、医療関係者向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。